

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に事業所独自の理念が作成されている。管理者、職員は日々理念を念頭におき業務にあたっています。	開設時に理事長と管理者とで検討し、事業所独自の理念を作成しました。相談室や職員用トイレ、事務室など事業所内の目に付く所に掲示をする他、忘年会時に全員で理念を復唱するなどして職員に理念を浸透させています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の食材等は地域の方から購入し届けて頂いたり、地元のスーパーを利用し日常的に交流している。また、地元の小学校、保育園、ボランティアの訪問を受け交流を図っています。	事業所にも回覧版をまわしてもらったり、近隣の小学校で行われた子ども祭りに参加したり、保育園の園児がホームに来てくれ、歌を披露してくれるなど地域との交流を行っています。また、地域のお祭り際には子供神輿が寄ってくれたり、事業所の広報を地域の3箇所のコンビニエンスストアに張らせてもらうなどの取り組みも行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等に地域住民の方から参加して頂き、理解をして頂けるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の現状、サービスの実践状況など、報告し、参加者様からの意見等頂いている。会議の内容は文章にし、玄関に提示し、ご家族様、職員全員が見られる様になっている。次第と報告を各市役所にも提出している。	地域住民や市の担当者、他法人の特別養護老人ホーム施設長などに参加していただき、運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催しており、事業所からの報告に加え、参加者から寄せられた意見や要望は参加者の協力を得ながら、計画を立てサービスの向上に活かされています。また、全ご家族への参加の呼びかけも行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が常に各市役所の担当の方と連絡を取り合っている。また、事故発生時には直ちに連絡、報告を行っている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております。事業所で作成する広報も市の担当者と市内の地域包括支援センターに持参し、事業所の状況の報告を行うなどして、協力関係を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、開設以来夜間のみ行っている。又、身体拘束の内部研修など行い、職員全員が理解し、業務にあたっている。	ホームとして身体拘束は行わない方針のもと、玄関の施錠についても夜間のみとしており、日頃の職員の言葉遣いについても管理者が指導を行う等、拘束しないケアが徹底されています。	身体拘束に関する職員の理解度を深めるためにも、事業所内で定期的に研修を実施されることを期待します。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修など行い、全職員が理解し業務にあたっている。日々の業務でも、お互いに声を掛け合いささいな事でも見逃される事のない様に注意し合っている。	日常の中で、声掛け等が精神的な虐待になっていないか職員相互に注意を払い、少しでも気になる場面があれば、即検討するようにされています。	虐待防止に関する職員の理解度を深めるためにも、事業所内で定期的に研修を実施されることを期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個々での学習に加え、管理者より資料が掲示され、学ぶ機会を設けている。又、必要に応じてユニット会議で話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様には、分かりやすい説明に心掛けて、不安や、疑問点に対し、十分な説明を行い理解と納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に第三者委員の紹介や市の機関を説明している、運営推進会議にご家族様から参加して頂き意見を促している。又、管理者と職員との話し合いから、より良い解決に向けて取り組んでいる。	日々の面会時、2ヶ月に1度の運営推進会議、年に1度のサービス担当者会議の他、夏祭りの際「家族の集い」として家族会を行っており多くの意見をいただけるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる会議だけでなく、常日頃より職員の意見や提案を聞ける姿勢にある。	毎月のユニット会議、リーダー会議にて職員との意見交換の場を設けているほか、日頃の業務の中でも意見や提案を確認するようにしており、その内容を運営に反映できるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は職員1人ひとりの勤務状況や、勤務態度などの把握に努めており、向上心を持って働けるような環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者や管理者は職員に対し、必要と思われる研修に参加してもらっている。その内容を復命書に記し、全職員に回覧している。また、定期的に看護師、救命士などによる、内部研修を行いスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個々での学習や研修、管理者会議等の機会を作り、同業者との交流の中でサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員、ご本人様と関わる時間を多く作り、寄りそいながら、色々な訴えに耳を傾けている。また、訴えがなくても、何を求めておられるのかを探り安心して過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	カンファレンスに参加して頂き、ご家族様が話しやすい雰囲気作りを心掛けている。また、希望や不安などに耳を傾け、共感し良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の状況をお聞きし、現状を把握する、その上で、その方にとって一番良い支援方法をご本人様、ご家族様、担当職員、ケアマネージャと相談し最も良い支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、学ばせて頂く姿勢を忘れないように努めている。また、常に支え合える関係であることを表現し、一方的な介護にならないよう努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月一回のお手紙で、ご様子を伝えている。また、面会時にはゆっくり話が出来る場を設けている、その際、職員も加わり日々のご様子を伝え、ご家族様と情報を共有し、共に支え合う関係づくりに努めている。	年に4回広報を作成し送付しているほか、担当者が毎月お手紙を作成し送り、ご家族と情報を共有できるようにしています。また、面会時などは話を伺い、年に1度のサービス担当者会議にはご家族にも参加していただけるようにし、協力関係を構築しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様、ご家族様からお話をお聞きし、慣れ親しんだ場所へのドライブや外出などを計画、実行している。また、ご家族様やご友人なども来所して頂けるような雰囲気作りをしている。	ご近所の方や友人に面会に来て頂いたり、自宅に泊まり田植えの手伝いを行ったり、ご家族の協力を得てなじみの美容室へ出かけるなど、馴染みの関係を継続できるよう支援しています。	職員の異動状況もご家族に分かりやすく伝わるように、事業所広報に掲載する等の検討を行われることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人様の性格、その日の状態を把握し、気の合う方と一緒に過ごせるようお手伝いしている。また、耳が遠い方などには、職員が間に入ったりと工夫することで、お一人にならないよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のところへ伺い様子をお聞きしている。また、ご本人様、ご家族様からの相談には、出来る限り応じるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしの中で、お一人おひとりと接する事で、希望、意向が何であるか汲み取るよう努めている。また、コミュニケーションが困難な場合には、ご家族様もお話をお聞きし、ご本人様の思いに添えるように努めている。	日常のやりとりでご利用者から頂いた要望についてはできるだけすぐに対応するようにしています。また、日々の生活の中で確認したご利用者の意向や面会の際などにご家族から聞いたことは生活記録に記入し、職員間で情報を共有し、ご利用者の支援ができるようにしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中で、一人ひとりの思いや意向が何であるか、汲み取る様努めている。又、コミュニケーションが困難な場合には、ご家族様からもお話をお聞きし、ご本人様の思いに添えるように努めている。	センター方式の書式を活用し、個々のご利用者のこれまでの暮らしの情報を整理しています。また、日々のやりとりの中で確認した新たな情報についても定期的に更新するようにしています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時には、必ずお一人おひとりの生活記録を読み、日々の様子や、心身状態を把握し、業務にあたっている。職員間の申し送りも大切に情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスには、可能な限りご家族様に参加して頂き、要望や意見を伺っている。又、ご家族様の面会時にもご利用者様の話やご家族様の要望や意見等聞く機会を持っている、これらを踏まえて作成している。ケアプランは、1年に1度のみなおしをしているが状態に変化が生じた場合には、その都度立て直しをしている	サービス担当者会議の出席が困難なご家族へも、介護計画の立案に加わっていただくよう、来訪時に介護計画に関する意見や要望を伺うよう工夫されています。また、年に1度サービス担当者会議を開催し、見直しを行うのみならず、毎日の経過記録の記入による評価と毎月のモニタリングにより、状態やニーズと計画にギャップが生じる場合は即座に見直しが行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録には、ご利用者様の短期目標が記載しており、計画通りにサービスがなされているかを確認する欄も設けている。又、ご本人様の言葉から感じた事や職員の思い、気付いた事も記載している。月末のモニタリングの際、その記録を参考にしながら、計画の見直しに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様が高齢である場合や特別な事情がある場合、受診やリネン、理美容などこちらで対応、代行を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	色々なボランティアの方々に来て頂いている。又、近隣の方々とは、日々の挨拶を交わし、回覧板を届けたりし、地域との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある場合は、入所後もそのまま受診して頂いている。状態の変化がある場合には、ご家族様と相談し日々の状態を伝える手紙を書き受診時に渡して頂いている。又、ない場合はご希望に沿った病院を紹介している。	往診にも来て頂いているほか、ご本人、ご家族の希望する医療機関にて受診してもらい、必要時には事業所からの手紙を書き、付き添うご家族を介して医師との情報交換が行われています。また、ご家族の付き添いができない場合は職員が受診支援を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務しており、その際、相談し対応している、心配ごとがある場合、勤務外であっても相談し対応を行っている、また、研修もして頂き、職員の意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、早期退院に向けて管理者が病院へ行き、ソーシャルワーカー、作業療法士と話し合いや情報交換に心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた場合はご家族様と相談し対応方法を考えている、グループホームで出来ることを伝える事で納得して頂いている。終末期については今の段階では考えていない。	契約時にグループホームとしてできることをご説明し、同意を得ており、医療的な支援が必要な場合は特養や病院に移っていただいています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	おおむね2カ月に1度看護師から講義を受けている、年に1回AED講習なども行っている。職員、看護師ご利用者様の情報を共有し話し合い、対応をしている。	消防署の職員による救命講習を事業所で行っているほか、看護師による食中毒やノロウイルスの研修も事業所内で行われています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち会いの下避難訓練を行っている。しかし、現在地域の方からは、参加して頂けていない為、今後協力して頂けるよう努めて行く。	事業所では年に2回、日中の火災を想定した避難訓練を行っています。地域の方の参加は無く、今年度は夜間を想定した避難訓練は行われませんでした。	避難訓練には地域の方へも参加をお願いするほか、夜間を想定した避難訓練も行う等、適切に避難できる体制を整えられることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応について配慮をするよう指導している。対応した職員が気付かない場合も、職員同士で注意し合うなど、日頃から気を付けている。	契約時にプライバシーの取り組みに関する説明をし同意を頂いているほか、現場でご利用者に対する職員の言葉遣いにも気が付いたらすぐに指導するなどの対応も行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の希望やその他を自己決定出来るよう声掛けにも工夫している、又、会話での仕草、表情、からも思いを汲み取り、出来る限り要望に応じられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課に縛られることなく、可能な限りその日の状態でご利用者様一人ひとりのペースに合わせ思い思い過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、おしゃれの配慮をしており、美容室に関してはご家族様に極力なじみの店にお連れして頂けるようお話している。毎朝の整容、入浴後など入居様が満足できる様鏡の前で見て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一度希望献立の日を設けご利用者様の希望に添えるようにしている。盛り付けや彩りなどにも気を付けて食事を楽しめるよう工夫している。また、準備、片付けもご利用者様の状態に合わせて職員と行っている。	週に1度、希望献立の日を設け、ご利用者の希望を聞く機会を作ることで、ご利用者の希望に添えるよう配慮されています。また、食事の準備、後片付けも職員と状態に合わせてご利用者が共同で行われています。事業所の畑で野菜の収穫と一緒に楽しんだり、ラーメン店やお寿司屋店への外食や出前を取る機会も設け、食事を楽しんでいただけるように努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日30品目以上の食材を取り入れ、栄養バランスに気を付け献立作りをしている。又、ご利用者様お一人おひとりの状態、体調に合わせた食事を提供している、食事量、水分摂取量が少ない場合はお好みの食事を提供できるように普段からお好みの把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人おひとりにあった、口腔ケアの声掛け、援助を行っており、週2回義歯洗浄(ポリドット)を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁軽減の為定期的なトイレ誘導を行っている。夜間はリハビリパンツを使用し、日中は出来る限り布パンツを使用させて頂くようにしている。	排泄パターンの把握するまでは排泄チェックを行い、オムツの使用を減らせるような取組みや、日中は出来る限り布パンツを使用させて頂くようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際、食物繊維を多く含む食品を取って頂いたり、毎日体操を行っている。数日排便が見られない方には、牛乳、八方爽健茶などをお勧めしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、その日のご利用者様の体調やタイミングに配慮しお誘いしている。また、菖蒲湯、ゆず湯に気持ち良く入って頂けるように工夫をしている。	入浴のスケジュールは作成するものの、気候やイベント、ご利用者の希望や気持ちに応じた柔軟な対応が図られています。また、入浴を嫌がる方への声かけの仕方やタイミングが職員間で共有されています。月岡温泉の足湯に出かけたり、ゆず湯など季節に応じた湯を楽しんでいただいています。	調査時点で入浴を嫌がるご利用者について、ケース記録に記入が無いところもありましたので、職員間で記録の方法について検討されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとり自由にリビングや居室で休んで頂けるよう支援している。入眠前に温かい飲み物を飲んで頂く事で、精神的にも落ち着かれる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの薬の把握はしており、服薬の際を確実に飲み込んで頂けるまで確認を行っている。又、服薬が変わった際には、副作用などの変化がないか確認を行っている。変化があった場合には、医師や調剤薬局と連携をとり対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴の把握の他、会話の中で好きな事、得意な事などをお聞きし、出来る事、興味のある事へのお手伝い出来るよう環境作りに努めている。ボランティアの慰問やドライブ、外出等で気分転換になるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日買い物にお誘いし、外に出られる環境作りをしている。畑、散歩など自由に行き来出来るように見守りしている。	天気の良い日は散歩をすることや、買い物などのドライブをするなど、可能な限り戸外に出られるよう支援されています。また、季節に応じたお花見、紅葉見学、いちご狩りなどの外出行事を企画し、ご利用者に外出を楽しんでもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人用のお小遣いは、事務所の金庫で管理させて頂いている。また、外出の際ご希望があれば、好きな物を購入して頂くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	心配事や不安で電話をしたいという訴えが多くあるご利用者様には、ご家族様に了解を得てお電話させて頂くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に季節の飾り、写真、花を飾り季節感を感じて頂き、目でも楽しんでもらえるように工夫している。	廊下の数箇所にソファが配置され、休んだり集ったりすることができるよう配慮されています。また床暖房や加湿器による湿度対策も行われています。また、装飾は華美にならず、職員が知恵を出し合い適度にご利用者の作品や心を打つ良い言葉などが目線を配慮して飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に何ヶ所かソファを配置し、気の合ったご利用者様と過ごされたり、また、一人になれる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や自宅から使い慣れた家具などを持って来て頂くよう声掛けをしており、心地よく過ごせる様配慮している。	使い慣れたベッドなどの家具や愛着のある品物を持ち込んでもらえるよう推奨し、ご利用者が居心地良く、安心して過ごせる居室になるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりのできること、わかることを見極めて、安全の中で自立した生活が送れるよう支援している。		